

木造建築に特化し、独自技術でコストパフォーマンスの高い安全・安心の建物を提供。中大規模木造建築でさらなる成長を目指す

「AQURA HOME (アキュラホーム)」など戸建て住宅を中心とした木造建築を手がけるAQ Group (エーキューグループ)。同社は適正価格にこだわりながら、木造建築の進化に向けて耐震性、耐久性等を高める開発に取り組み技術を磨いてきた。現在は純木造マンションの建築も手がけている。今後も独自開発した二つの構法で安全・安心の建物を提供し、注文住宅と併せて4階建て以上の中大規模木造建築でさらなる成長を目指す考えだ。



代表取締役 兼 社長執行役員
加藤 博昭氏

- 代表者 代表取締役 兼 社長執行役員 加藤 博昭
- 創業 昭和53年10月
- 設立 昭和61年5月
- 資本金 9,314万円
- 従業員数 1,605名(2026年3月現在)
- 事業内容 注文住宅事業、分譲住宅事業、工務店支援事業、リフォーム事業、資産活用事業、研究開発事業、ファイナンス事業等
- 所在地 〒331-0052 さいたま市西区三橋5-976-1
TEL 0120-984-351

●URL <https://www.aqgroup.jp>



株式会社AQ Groupは戸建て住宅を中心に木造建築を手がける建築会社である。商品ラインナップは、完全自由設計の「AQURA HOME」、高級邸宅ブランド「AQ Residence」、大手ハウスメーカーと同等の品質をローコスト価格で提供する「AQ HAUS」、そしてRC(鉄筋コンクリート造)と同等以上の耐震性、耐火性、遮音性などを実現した純木造マンションシリーズ「AQ FOREST」を展開し、どのブランドも確かな品質、そして自由度の高い設計で顧客から絶大な人気を集めている。

令和6(2024)年、同社はさいたま市の国道17号新大宮バイパス沿いに、純木造8階建ての本社ビルを竣工した。

建物の壁は「高耐力組子格子耐力壁」などの技術を駆使して住宅用耐力壁の8~14倍と、国の基準をはるかに超える強度を実現。要求される耐火性能をしっかり担保しながら、構造材に木材を使用することでCO₂排出量が43%削減されている。このビルこそが、長年木造注文住宅を造り続けてきた技術力を雄弁に語っている。

竣工の翌年、同社はこのビルで世界3大デザイン賞

の一つ、ドイツの「iF DESIGN AWARD 2025」を受賞した。建築部門における差別化、機能、持続可能性の項目で高い評価を受けての受賞であった。

「当社の本社ビルは木造軸組み工法を用い、免震装置に頼らない耐震構造で建築した日本初の純木造8階建てビルです。当社は創業以来、木造住宅の品質を追求するため、技術開発や研究開発を行ってきました。価格やデザイン性はもとより、耐震性、耐久性、断熱性など目に見えないものに長年取り組み価値を高めてきたのです。このこだわりが、当社の競争力であると思います」(加藤博昭社長)

同社は首都圏を中心に東北から九州まで支店を展開している。年間約2,000棟の注文住宅を受注し、売り上げは順調に推移している。

→ 低コストおよび高耐震性の追求に向けた歴史

同社は昭和53(1978)年、現会長の宮沢俊哉氏が大工として独立して創業した。創業時はリフォーム事業でスタートし、その後、住宅建築に進出する。

そして昭和61年、世の中の平均坪単価が60万円は

どの時代に、直接施工などの創意工夫によってコストを低減した坪単価21万円の注文住宅「M21」を発売すると注文が殺到し、大きく成長を遂げる。

「その頃は木造だけでなくRC造、鉄骨造も手がけていました。同時に会長自ら全ての建物に住んで住み心地を確かめ、最終的に『やはり木造だな』ということに気づき、それ以降、木造建築に特化して事業を進めてきました」

創業当時から宮沢会長は、住宅産業の見積もりはいわゆる“どんぶり勘定”が主流で中身はブラックボックス化されていることに疑問を抱いていた。そこで平成6（1994）年、全ての部材や大工の手間をデータベース化してコストと品質管理を標準化、無駄を省く住宅建設合理化システム「アキュラシステム」を開発し、適正価格での住宅販売を実現した。また、このシステムを全国の工務店約2,800社に供給していった。

さらに、地震や台風など自然災害の多い日本において安全で長く住み続けられる住まいを追求するため、早い時期から実物大の建物を使って耐震、耐風、耐雨等の実験を行ってきた。

「20年以上も前から、注文住宅の耐震や耐風など、さまざまな性能を高めるにはどうすればいいか、という研究を大学の研究者の方々の力を借りて進めてきました。耐力壁などの強度を高めるために研究と実験を何度も繰り返してきました」

実験によって支障が明らかになった場合は、コストが上がりたくない汎用性のある部材や施工の工夫で品質の改善を図っていった。こうして得た確かなエビデンスで、建物の安全性を高めていったのだ。

→ 同社が独自開発した木造建築技術

木造建築を手がけてきた同社が、独自開発した技術の一つが「AQダイナミック構法」である。これは、3階建て以下の木造建築に使われる構法だ。通常の耐力壁よりはるかに強い15倍耐力壁をはじめ、9倍、5倍の耐力壁を建物外部に適材適所で使用することにより耐

震強度を確保する。さらに基礎や床、屋根にも耐震性と耐久性を高める技術が組み込まれている。それによって従来の建物では強度を保つために組み込まれていた柱や壁などが最小限となり、1mm単位で自由な間取りが実現できる。

例えば、天井高約5.6mの吹き抜けや約30畳の無柱空間もAQダイナミック構法では実現可能だ。

「AQURA HOME」や「AQ HAUS」「AQ Residence」には、それぞれ明確なコンセプトがあり、

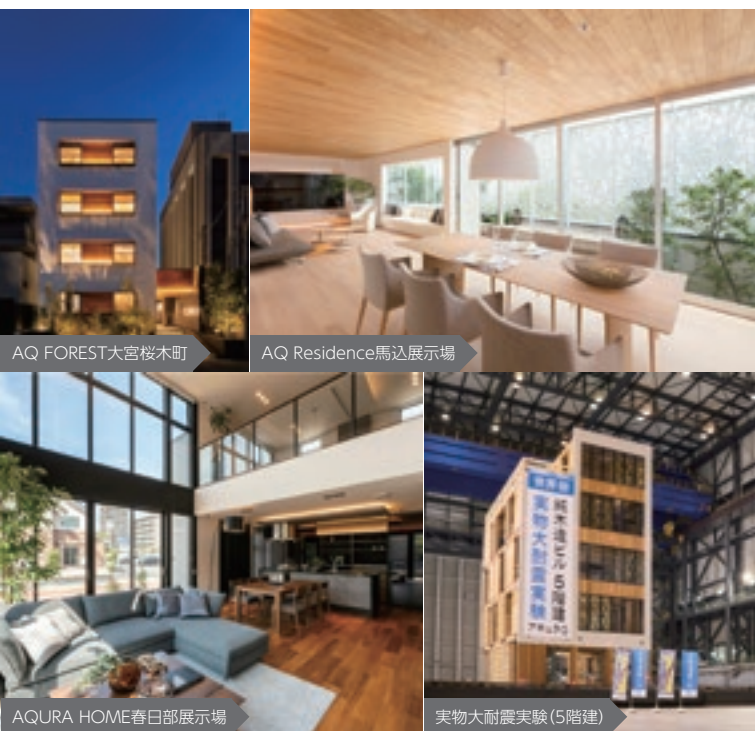


各ターゲットから人気を集めているという。

「建物内の壁や柱が必要最低限に抑えられるため、ご家族の生活スタイルによって将来のリフォーム時の費用を抑えられます。例えばお子さんが独り立ちして、夫婦2人の暮らしになった時、子ども部屋との間仕切りをなくして広いリビングにすることもできますし、お子さんが戻られた時には二世帯にすることもできる。そうすることで長く住むことができます」

そしてもう一つ、同社が開発した構法が大型倉庫や4階建て以上などの中大規模木造建築に向けて生み出した「AQ木のみ構法」である。これは日本で古くか

ら用いられ、現在も主流の木造軸組み構法をベースに、一般的な木材を組子のように組み合わせることで力を分散させて耐震性を高める「高耐力組子格子耐力壁」や、柱と梁を一体化させたフレームで耐震性を高める構造等を駆使して、高い耐震性と組子格子による建物の意匠性を両立させている。戸建て住宅と同様、建物は必要最小限の壁と柱や梁で耐震性が担保できるので、狭小地のビルでも自由な間取りが実現できる。



「35倍や40倍もの壁の強度を計る実験施設が関東周辺になく、富山まで出向いていました。そこで、木造住宅や中大規模木造建築の試験が自社で行えるよう、埼玉県上尾市に木造建築技術研究所を開所。同研究所内に純木造平屋建ての『構造実験棟』を建築しました。これによって開発スピードが大幅にアップしました」

木材は容易に仕入れが可能な住宅用のプレカット材を使用しており、それによってコストも抑えられている。同社建築物の“強い”“広い”“適正価格”はこうした努力で実現されている。

→ 純木造ビルの普及に向けた取り組み

令和7年、同社は大宮に純木造4階建てマンション「AQ FOREST 大宮桜木町」を竣工した。このマンションは、国産材利用率58%で高耐震、高耐火、低コスト、短工期を実現している。ところどころに木造らしさを生かしたデザインが施されており、入居者の住み心地に配慮した空間演出がなされているのが特徴だ。AQ FORESTシリーズは同年「AQ FOREST 赤羽西」も完成し、現在首都圏各所で建築が進められている。

「AQ FOREST 大宮桜木町は建てる前から注目を集め、完成と同時に満室になりました。随所に木造らしさを演出していることで、入居者の方々から『あたたかい感じがする』という感想をいただいています。現在も多く地主さまからお声がけいただいています」

また同社は全国から加盟店を募り、自社の技術やノウハウを提供してマンションや商業ビル等の中大規模木造建築を普及させていく「中大規模木造建築共創<ともつく>ネットワーク(通称:ともつくネット)」を設立した。このネットワーク力を生かして、日本の街並みを「純木造の森」にしていく目標を掲げている。

→ 中大規模木造建築でさらなる成長を目指す

「今後は、コア事業である注文住宅で安全・安心の建物を提供していくことに加え、AQ FORESTシリーズをはじめとする中大規模木造建築が成長のカギになると思いますので、力を入れて挑戦していきます」

さらに同社は、人件費や資材の高騰などで住宅市場が厳しさを増す中でも、AQ Groupが安全で安心して長く住み続けられる木造建物を提供できる企業だと広く顧客に認知されれば、まだまだシェアを拡大できると見込んでいる。

今年3月、同社は東京・浅草に5階建て以上の純木造ホテルを建築するプロジェクトを発表した。純木造にこだわって木造建築のさらなる高みを目指すAQ Groupの取り組みに、今後も注目していきたい。